

【資料提供先】

高松経済記者クラブ

【問い合わせ先】

一般社団法人公共建築協会

四国地区事務局

事務局長 中島 秀明

電話：087-873-2266

E-mail：shikoku@pba.or.jp

## 第19回公共建築賞「公共建築賞・優秀賞」及び「地域特別賞」の 決定について（四国地区）

一般社団法人公共建築協会・一般財団法人建築コスト管理システム研究所が、国土交通省、全国知事会、全国市長会及び全国町村会の後援を得て実施している第19回公共建築賞の「公共建築賞・優秀賞」及び「地域特別賞」が決まりましたのでお知らせいたします。

四国地区での受賞建築物は、次の3点です。

【公共建築賞・優秀賞】

建築物名	所在地
オーテピア高知新図書館等複合施設	高知県高知市追手筋 2-1-1
高知県立高知城歴史博物館	高知県高知市追手筋 2-7-5

【地域特別賞】

建築物名	所在地
美馬市地域交流センターミライズ	徳島県美馬市脇町大字猪尻字西分 116-1

《公共建築賞・優秀賞 受賞作品》

オーテピア高知新図書館等複合施設（文化施設部門）



外 観



内 観

## 《施設概要》オーテピア高知新図書館等複合施設

- 所在地：高知県高知市追手筋 2-1-1
- 建物用途：図書館等複合施設
- 敷地面積：6,606 m<sup>2</sup>
- 構造形式：中間免震構造、上部：鉄骨造（一部プレストレスレスコンクリート梁）  
下部：鉄骨鉄筋コンクリート造、地上 9 階 地下 1 階 塔屋 1 階
- 延べ面積：23,761 m<sup>2</sup>
- 竣工年月：平成 29 年 12 月
- 事業者：高知県・高知市
- 施設管理者：高知市教育委員会図書館・科学館課
- 設計者：佐藤総合計画・ライト岡田設計設計業務共同企業体
- 施工者：大成・ミタニ・有生特定建設工事共同企業体

オーテピアは高知県・高知市一体型図書館を中核に据えた複合文化施設である。

「県・市一体型図書館」という形式は本邦初であり、地方行政の垣根を超えたその企画とそれを見事に実現させたことがまず、高く評価できる。

図書館の設計としては、施設全体が「大きな樹木のような」存在として設計されている。具体的には閉架書庫が幹、その周りに囲む開架ゾーンが枝の広がり、建築外周を包むリーフルーバーが文字通り葉をなす。通常は完全にブラックボックス化されることが多い閉架書庫がガラスばりどこからも視認でき、知の集積の「見える化」がなされている。

その周囲に自由に談話できる開架スペースが、リーフルーバーを介して降り注ぐ柔らかな光に包まれた空間をなす。

また、このリーフルーバーは綿密なシミュレーションによって、日射日照が制御できるとともに、優れた耐候性をも備えている。樹木などの自然物は、よく建築に比喩的に取り入れられることが多いものの、その多くは「こじつけ」に堕してしまう。

しかし、本施設ではそれが、コンセプトのレベルから、空間、モノの細部のレベルまで徹底して具現化されており、目を見張るものがある。

図書館の他には上階にプラネタリウムを備え、文化施設としての包括性を高めている。

立地が高知城や高知市随一の商店街「帯屋町商店街」に近接していること、さらに前面道路向かい側には二つの高校が位置しており、老若男女問わず市民に広く愛される施設となっている。

具体的には全国図書館の利用者数 1 位を誇る成果を連続年であげている。またこの施設ができたことで、「帯屋町商店街」に活気を与えている。

さらには施設が中間免震を備え避難時の備蓄を持つなど、地域への貢献度が極めて高い。多岐にわたる施設複合でありながら、その管理運営も行き届いており、CASBEE の S ランクを取得するほどの環境性能をも備える。極めて質が高く、地域に広く愛される公共建築として高く評価される。

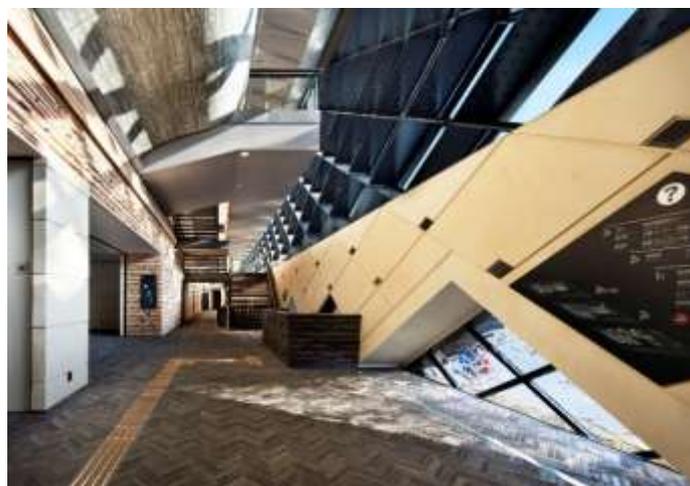
（四国地区審査委員長 渡辺 菊真）

《公共建築賞・優秀賞 受賞作品》

高知県立高知城歴史博物館（文化施設部門）



外 観



内 観

## 《施設概要》高知県立高知城歴史博物館

- 所在地：高知県高知市追手筋 2-7-5
- 建物用途：博物館
- 敷地面積：3,983 m<sup>2</sup>
- 構造形式：中間免震構造、鉄骨鉄筋コンクリート造+鉄筋コンクリート造+プレキャスト・プレストレストコンクリート造+一部鉄骨造 地上3階
- 延べ面積：6,220 m<sup>2</sup>
- 竣工年月：平成28年4月
- 事業者：高知県
- 施設管理者：公益財団法人土佐山内記念財団
- 設計者：日本設計・若竹まちづくり研究所共同企業体
- 施工者：清水・轟・入交特定建設工事共同企業体

高知県立高知城歴史博物館は高知山内家の貴重な資料 67,000 点を収蔵するとともに、展示する施設である。立地場所が高知城のすぐそばであるため、城郭的なデザインを現代的にアレンジした姿形を持ち、「古今の城デザインのコラボレーション」ともいえる景観を形成している。

設計は「現代の城郭」が目指されているわけだが、それを支えるモノとして、高知県の伝統的建築文化である、瓦、土佐漆喰、土佐和紙、土佐大工による木工など、地元の名工による、こだわり抜かれた技の集積場となっている。

「殿様」に献上するための仕事として技を尽くしており、そういった伝統技術の博物館という新たな意味を獲得している。また、山内家の資料のみならず、一般の住民が蔵や倉庫に所蔵していたさまざまな「骨董」の保管も可能な限り受け入れるなど、民俗博物館の一面も併せ持つ。

高知城下のすぐそばで城と「コラボ」をなす開かれた施設であり、来館者数も極めて多く、城とセットでまわる施設になっていること、通常の博物館のように展示、収蔵を行うだけでなく、高知の他地域の文化財の修復、研修まで行っていること、追手筋に面した舞台にて、市民による演奏会が企画されるなど、街中の文化発信基地としても機能していることなど、公共建築として評価すべき点が多岐にわたっている。

そしてこれら評価すべき点の多さは、施設の竣工をもって、終わるのではなく、施設竣工を起点に、施設をどう活かすのかを、日々、模索し実践を重ねる施設管理、運営の地道な努力によってもたらされている。

このように、高知城とコラボする景観形成、伝統建築技術の競演と「収蔵」、資料展示と収蔵を超えた試み、文化発信基地としての役割など、数多くの評価すべき点を備えた価値ある施設だと言える。

(四国地区審査委員長 渡辺 菊真)

《地域特別賞 受賞作品》

美馬市地域交流センターミライズ（文化施設部門）



外 観



ホール客席正面

## 《施設概要》美馬市地域交流センターミライズ

- 所在地：徳島県美馬市脇町大字猪尻字西分 116-1
- 建物用途：劇場、図書館、保育所、物販店舗、自動車車庫
- 敷地面積：12,540 m<sup>2</sup>
- 構造形式：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造、耐震壁付ラーメン架構、地下1階 地上2階
- 延べ面積：23,342 m<sup>2</sup>
- 竣工年月：平成30年2月
- 事業者：美馬市
- 施設管理者：穴吹エンタープライズ株式会社
- 設計者：株式会社アール・アイ・エー
- 施工者：五洋建設株式会社 四国支店

美馬市地域交流センターミライズは、1980年代後半に建設された大型商業施設をリノベーションによって文化施設に転生させた建築である。ただし、既存商業施設にあったスーパーは存置されている。本施設は「うだつ」の町で知られる脇町の「重伝建地区」のそばに立地する。

1980年代には民間、公共問わず、建築に地域の形態的特色をもたせた施設が数多く建設されてきた。

これはポストモダンという当時、一世風靡していた建築流行の影響であり、地域が担う機能の本質とは無関係な場合も多く、そういった施設の多くが早期に陳腐化してしまい、廃棄されることも多い。

本施設の前身建物もそういった類のものであり、事によると地域の「お荷物」になりかねないものである。

しかし、この施設を活用し、リノベーションによって活用しようと決めたこと、施設としては商業施設から文化施設、しかも、大型のホールまで備えた本格的な文化施設に転じようとしたこと、さらに地域に愛されてきたスーパーは存置するなど、その企画と、それを推進し実現させた行政の熱情には、特筆すべきものがある。

そして、この企画を設計する際に発生するさまざまな難題に対して、民間の設計者が既存施設の改変を最小限に抑えつつ、その効果が最大になるように尽力して具現化したことは高く評価できる。

完成後は地域の中高生が勉強集会等で自由に集い、これまでと変わらず地域住民がスーパーで買い物するなど、あたらしい地域拠点として機能している。

ポストモダン後期の民間商業施設を地域の文化的ストックとして位置付け、「文化施設かつ一部商業施設」という、あまり例をみない「公共建築」に転生させたこと、それを高い設計力で具現化したこと、地域拠点としてしっかりと機能していることは、独自性ある確かな成果である。

(四国地区審査委員長 渡辺 菊真)

# 公共建築賞について

## ■「公共建築賞」の目的

公共建築賞は、優れた公共建築を表彰することにより、公共建築の総合的な水準の向上に寄与することを目的に昭和63年に創設され、国土交通省、全国知事会、全国市長会及び全国町村会の後援を得て、一般社団法人公共建築協会と一般財団法人建築コスト管理システム研究所の共催により、隔年で実施しているものです。他の建築賞に比べて、竣工後3年以上経過した公共建築を対象としていることのほかに、評価の基準として、設計施工が優れているということのみではなく、地域社会への貢献や施設管理、保全といった視点からも評価を行うことに特徴があります。

## ■「公共建築賞」の対象となる公共建築

公共建築賞の対象とする公共建築は、国の機関、地方公共団体又は政府関係機関若しくは、これらに準ずる機関が施行した公共建築及びその他公共性の高い公共建築としています。また、竣工後3年以上経過したものを対象としており、第19回公共建築賞では、2016（平成28）年4月から2021（令和3年）3月の間に竣工した公共建築を対象としています。

## ■「公共建築賞」の種類について

### 1) 公共建築賞（国土交通大臣表彰）

次の部門ごとに、総合的に最も優れた公共建築を選定します。

- ① 行政施設部門（庁舎、会議場及び研究所等の用に供する建築物）
- ② 文化施設部門（展示、図書、芸能及び余暇等の用に供する建築物）
- ③ 生活施設部門（宿泊、福祉、医療、教育、研修、集会、体育、流通、交通等の用に供する建築物）

### 2) 公共建築賞・特別賞（国土交通省大臣官房官庁営繕部長表彰）

前記の3部門を通じて特に優れた特徴をもつ公共建築2点内外を選定します。

### 3) 公共建築賞・優秀賞（公共建築協会会長・建築コスト管理システム研究所理事長表彰）

各地区審査委員会（第1次審査）より本部審査委員会（第2次審査）の対象として推薦のあった優れた公共建築を選定します。

### 4) 地域特別賞（公共建築賞地区審査委員会委員長表彰）

各地区審査委員会が、本部審査委員会審査の対象として推薦した公共建築以外で、地区において優れた特徴をもつ公共建築、奨励すべき公共建築を選定します。

## ■表彰対象者について

各賞に選定された公共建築に関係する事業者、設計者及び施工者を表彰します。

事業者としては、事業者・建築主の他、施設の運営・管理者も表彰対象としています。

設計者及び施工者に関しては、従来発注者から直接設計業務を受託し、設計者及び建築工事を受注した施工者のみを表彰対象者としていましたが、第19回からは、当該プロジェクトにおいて重要な役割を担った者（例えば、構造設計や設備設計を協力事務所として実施した者、電気設備工事や機械設備工事を実施した者、など）に表彰対象を広げています。

## ■第19回公共建築賞の審査の経緯

- 1) 全国から応募のあった114点の公共建築について、北海道、東北、関東、北陸、中部、近畿、中国、四国及び九州沖縄の全国9つの地区審査委員会による審査後、協会本部に推薦した公共建築を本部審査委員会による審査の結果、全国で33点が「公共建築賞・優秀賞」に決定し、四国地区からは2点が選ばれました。
- 2) 全国で8点の公共建築が「地域特別賞」に決定し、四国地区からは1点が選ばれました。
- 3) 今後、本部審査委員会による審査が継続され、「公共建築賞・優秀賞」（33点）のなかから、「公共建築賞」及び「公共建築賞・特別賞」が決定されます。

■第19回公共建築賞審査委員

四国地区審査委員会（第1次審査）	（敬称略 委員名は50音順）
委員長 渡辺 菊真	高知工科大学教授
委員 池田 拓真	香川県総務部営繕課長
釜床 美也子	香川大学創造工学部講師
武智 和臣	アトリエ A&A 代表取締役
山本 英史	国土交通省四国地方整備局営繕部長

本部審査委員会（第2次審査）	（敬称略 委員名は50音順）
委員長 和田 章	東京工業大学名誉教授
委員 金子 陽子	東京都財務局建築保全部長
工藤 和美	建築家 東洋大学教授
白石 真澄	関西大学名誉教授
末兼 徹也	国土交通省大臣官房営繕部整備課長
高岡 美佳	立教大学教授
田辺 新一	早稲田大学教授
藤田 伊織	一般社団法人公共建築協会会長
涌井 史郎	東京都市大学特別教授

■四国地区の表彰式について

第19回公共建築賞の「公共建築賞・優秀賞」及び「地域特別賞」が決定したことを受けて、四国地区における表彰式を、次のとおり開催いたします。

日 時：令和7年6月12日（木） 11時30分～  
場 所：ホテルパールガーデン 香川県高松市福岡町2-2-1